

# My First Stage

患者の背景を踏まえて治療にこだわる若手 Dr. にご登場いただく欄

## 歯周外科処置により根分岐部病変の改善をはかった一症例

青木隆宜

福岡県開業 あおき歯科クリニック  
連絡先：〒813-0016 福岡県福岡市東区香椎浜3-2-7



キーワード：歯周基本治療，歯周外科処置，根分岐部病変

### 臨床経験年数

2004年3月福岡歯科大学卒業。  
2011年現在の歯科医院に勤務。  
2015年に買い取り開業。船越歯周病セミナー，KIDSセミナー，筒井塾包括歯科臨床コース，大村メソッド受講。北九州歯学研究会，歯達会，日本口腔インプラント学会，日本顎咬合学会，日本顕微鏡歯科学会，日本歯内療法学会会員。

### 診療方針

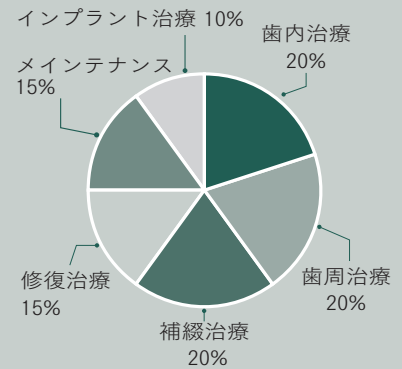
1本の歯を大切にし，つねに保

存を心掛ける。個々の患者に合った最善の治療法を提案できるように知識や技術の研鑽を続ける。

### 1 日々の臨床

当院は住宅街に立地しており，かかりつけ医として来院される患者がほとんど。そのため，口腔内全体の説明を希望される患者が多い。治療後もメンテナンスで来院する患者の割合が高く，自分の臨床を振り返ることができ，責任とやりがいを感じている。

### 日常臨床で行う治療の内訳



### 初診時の状態



図1 a | 図1 b | 図1 c  
図1 d | 図1 e

図1 a～e 初診時の口腔内写真。





図3a 上顎右側の歯周外科。剥離時。

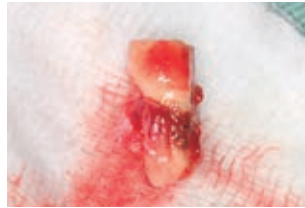


図3b 8|埋伏歯の影響もあり、一部根尖部まで付着がなかった。



図3c デブライドメント前。

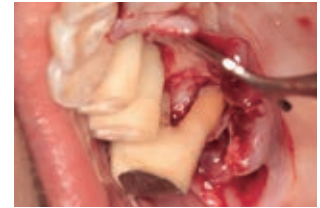


図3d デブライドメント中。

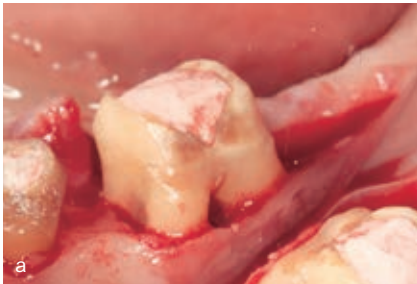


図4a, b 下顎右側の歯周外科。頬側、舌側ともにII度の根分岐部病変があった。

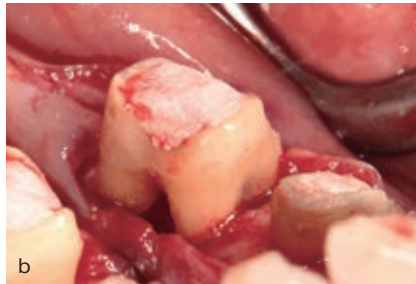


図4c エムドゲイン®を塗布後、骨欠損部にFDDBAを充填。



図5a 歯周外科16か月後の状態。



図5b 歯周外科14か月後の状態。



図5c 印象時の石膏面。

## 治療結果の自己評価と患者の様子

■**自己評価**：全顎的にプロービング値の改善もみられ、一定の評価はできるが、今後も注意深いメンテナンスが必要である。

今回の症例はII度、とくにIII度の根分岐部病変に対してチャレンジングな外科処置であり、場合によって、再度の外科的アプローチや根分割など、治療途中の経過により適宜考えられる治療方針が複数存在する。下顎左側はII度からI度に改善できたが、もう一度歯周外科を行えばさらなる改善ができたのでは、と考える。同じ部位に数回外科的アプローチを行うことや途中で治療方針の変更が必要になる可能性を念頭において、めざしたい治療のゴールを明確にイメージしてもらえようような説明を当初から行

う必要があったと反省している。

■**患者との信頼関係が築けたと感じた瞬間**：歯周基本治療中にも歯肉の腫脹が発生することがあったが、TBIおよび初期治療を徹底したうえで歯周外科処置を行うと、症状が完全に消失した。歯肉の改善を実感していただき、補綴物は長持ちするものがよいと言ってもらえた。

■**今後の課題**：まずは1本の歯の保存にとことんこだわりたい。その治療ひとつひとつの精度を高めていき、一口腔単位で守ることができるようになりたい。また、矯正治療を含めた咬合力のコントロールの知識・技術をさらに養っていきたい。



